




ねえ、みてみて雄一♪

梅の花が咲いてるよ♪



甘くていい香り♪

春が近づいてきたね……♪



…あの日、あの夜から  
しばらく経ち


春休みを目前に控えた  
休日の午後。



そうだね

もうすっかり  
暖かくなってきた……

もうそろそろ  
桜も咲くかなあ



僕達は近所のお寺を  
ゆっくりと散歩し

春の訪れを告げ始めた草花を  
そっと眺めていた。

それは僕達にとって  
小さいころから続く風物詩で…

ふふっ♪

今年もお花見行こうね♪

お弁当もいつも以上に  
気合入れて  
たっふり作るから♡

あ、ありがとう……

で、でも量は  
去年の半分くらいで  
いいんじゃない……？

重箱4段はさすがに……

え〜？

だって雄一の好物  
全部入れたらそれくらいに  
なっちゃうんだもん♪

そ、それは……

嬉しいけど胃袋がね……？



陽菜子ちゃんは毎年

お花見のお弁当には  
僕の好物を全部作ってくれていた。



最初は1段で済んでいた  
重箱も

陽菜子ちゃんが料理を  
本格的に始めてからは  
段々と積み重なっていき……

…作ってる時さ

凄く嬉しいんだ♪

私の料理で毎年少しずつ  
雄一の好物が増えていって…



『ああ、もうこんなにか  
たくさんあるんだ』って


新学期が始まる頃に  
思えるのが凄く幸せで…



私の春の  
密かな楽しみなの♪

♪いっしょに♪

陽菜子ちゃん……



陽菜子ちゃんがそう言って  
幸せそうに微笑む。

そんなささやかな幸せを  
聞いてしまったら

彼氏として  
弱事など言っていられない。

男の見せ所だ。

普段全然  
見せられていない分


「こういう時こそちゃんと…」



「ごめん…」

やっぱり  
全部作ってほしい…

何段になっても一つ残さず  
食べてみせるから…!!



気合を入れてそう告げる。

それを聞いた  
陽菜子ちゃんは

スツと愛おし気に  
目を細めると……



……じゅじゅ……

ほんと？

じゃあ……

甘えちゃおっかなあ♡

いっぱい愛情込めて  
作るね♪

うん…!!

そんな風に  
じゃれ合いながら……

うふふ……♡

それじゃあ張り切って  
新作も入れちゃおっかなあ♡

重箱8段くらいでもいい？

えええ……!?

温かな風や優しい香りに……


冗談だよ〜♪

じよ、冗談か……

ま、まああっても  
全然食べるけどね……？

ほお〜〜？

春の気配に身を委ねていく。



僕の日常は  
平穩を取り戻していた。

暖かで幸せな日常が  
戻ってきていた。



ただ...

A muscular man is shown from the back, wearing a light-colored, short-sleeved shirt and dark pants. His hair is dark and styled upwards. The background is a solid dark grey.

…一つだけ

気がかりなことがあった。

“剛田君”のことだ。




陽菜子ちゃんの話では

あの日丘の上で  
僕と会う以前に

剛田くんには全て演技だったと  
話していて……

セフレの関係も  
解消していたそうだった。



A muscular man is shown from the back, wearing a light-colored, long-sleeved shirt and dark pants. His hair is dark and styled upwards. The background is a dark, solid color.

しかし剛田くんは  
あれからすぐ学校で  
僕に会ったとき……

……いづ言っただ。

……すげえよな

陽菜子

結局全部  
お前のための  
演技だったなんてよ

……





すっかり掌の上で  
転がされてたぜ……

すげえ女だよ

……だけど



俺は諦めねえぜ

!!  
...

手応えは  
あったからな

俺のチンコで  
感じてたのは演技じゃねえ

膣内の痙攣とか潮吹きまで  
演技なんてできねえだろうしな



それに……

“俺にメスとして  
惹かれた瞬間”も

俺は確かに感じたんだ

ツ……!!



全部演技だったって  
言われた今も

あれだけは  
嘘だと思えねえ

ハア……ッ

ハア……ッ



だからよ……

何か“隙”があれば  
今度こそ絶対寝取れる

陽菜子の理性を  
崩せるだけの

“付け入る隙”があればな



ふひっ♡

だから俺は  
諦めねえぜ♡♡

絶対陽菜子を  
俺のメスにしてやる♡♡

ツ  
ッ  
ッ  
ッ  
ッ  
!!

ドワッ  
ッ  
ドワッ  
ッ

その言葉に心臓は  
激しく跳ねた。

狙われている  
不安と焦燥に  
胸が焼けるように痛んだ。

ハア……ッ

ハア……ッ

ドクンッ ドクンッ




しかし僕はすぐに  
陽菜子ちゃんの言葉を思い出し

はんすう  
反芻した。



私の雄一への気持ちは  
普通じゃない

剛田くんじゃ  
私を墮とせない




そして自分に  
言い聞かせる。

剛田くんの言う“隙”なんてない

陽菜子ちゃんに

“付け入る隙”なんてありません



そうやって繰り返し

ざわつく心を鎮めていき……

ドクン ドクン



ねえねえ♪

帰りは小さい頃みたいに  
グリコしながら帰ろ？

先に家に  
着いた方が勝ちね♪

陽菜子ちゃんと過ごす  
幸せな春の日常の中で

次第に剛田くんの  
言葉も不安も

冬の寒さと共に  
忘れていった。



…はずだった。









気持ちいい……

う、うん……

♡♡

……最近

セックスの頻度が増えていた。



…陽菜子ちゃんに

誘えられる形で。

…



そっぴり……

はあ……♡

はあ……♡



セックスの初めは  
いつものように

相手を労わるような  
優しい腰使いだけど……





いっ...♡

いっ...♡

...!!

ぐん♡

ぐん♡

ぐん♡

ぐん♡

次第に下半身を僕のお尻に  
擦り付けるような...

そんな腰つきに  
変わっていった...





えっ...?



フウ……♡

フウ……♡

フー♡ フー♡

アハハ♡

アハハ♡

アハ♡ アハ♡

あ……っ

う……う

時間が経つにつれて  
その激しさは増していく。

お尻を叩きつけるように  
なっていく。



…それはまるで  
飢えているようだった。

僕のおちんちんでは  
届かない膣奥を

求めてるような…



他のオスに味わわされた  
膣奥の快楽を

恋しがっているような……



……今まで

こんなこと  
一度もなかった。

陽菜子ちゃんが  
自分から快楽を  
求めるようなことは  
今までなくて

いつも僕をからかう  
余裕さえあって……



…しかし今

そんな余裕は  
感じられない。

フウ……♡

フウ……♡

快楽を求めてピストンに  
没頭しているように思える。



…ある疑念が浮かんだ。

疑心暗鬼が  
鼓動を早めていく。

ハア……!!

ハア……!!

又た♡ 又た♡

ドクッ♡ ドクッ♡

…陽菜子ちゃんは

“欲求不満”なんじゃないか。



今まで陽菜子ちゃんの  
快樂の上限は僕だった。

でも強いオス

遅しいオチンポを  
知ったことで...



その上限は  
遥かに高められ

そして僕のおちんちんでは  
到底それを満たすことは  
出来なくて……

ハア……!!

ハア……!!

ドクンッ  
ドクンッ

満たされていない…

欲求不満かもしれない  
疑心暗鬼が

不安と焦燥を強く  
掻き立てていく。

フーッ!!

フーッ!!

ドクンッ ドクンッ

……剛田君の言葉が  
思い出された。

陽菜子ちゃんの理性を  
崩せるだけの

“付け入る隙”の存在。

ドワニッ ドワニッ



そんなものないと  
自分に言い聞かせていた。

しかし欲求不満は  
今までになかった状態で……

フーッ!!

フーッ!!

ドクンッ ドクンッ

しかも  
それは言い換えれば

フウ……♡

フウ……♡

“自分を満たしてくれ  
より強いオスを求めてる状態”




…自分を満たしてくれる  
強いオスに

以前より魅力を  
感じやすくなってるんじゃないか。







：：仄暗い考えが  
不意に浮かぶ。

背中にゾクリと  
鳥肌が走る。

……欲求不満なら  
解消してあげたい。

でも僕のおちんちんでは  
到底無理で

強いオスでなければ  
ならなくて……



でも今の陽菜子ちゃんは

剛田君の言う  
“付け入る隙”のある状態かも  
しれなくて……



…もう一度強いオスと  
セックスしても

理性が勝って  
くれるだろうか。

本能に抗って  
帰ってきてくれるだろうか。



疑心暗鬼が  
胸を掻きまわっていく。

不安と焦燥が  
仄暗い興奮を煽っていく。

ハア……ツ!!

ハア……ツ!!



寝取られる恐怖に

嫌だと泣き叫ぶ理性。

寝取られ性癖の沼に  
より深く沈み

発情する体。

ハア……ッ!!

ハア……ッ!!

ドクッ ドクッ

僕は……

僕は……

ドクッ ドクッ



ひ、陽菜子ちゃん……ッ!!

タピッ♡

タピッ♡

陽菜子ちゃんは  
もしかして……ッ

よ、欲求不満なの……ッ？



疑心暗鬼に我慢できず

思わず尋ねる。

ドクンッ ドクンッ

僕の問いかけに

陽菜子ちゃんは……

ドクッ ドクッ

……ちよつとだけね♡

……





あっ



ビュルルルル





ハア...ッ!!

ハア...ッ!!

ビュッビュッ

ムムムム

♡ じゅんじゅん...

フーッ!!

フーッ!!

じゅんじゅん

じゅんじゅん



膣内に広がる  
射精の感触に

陽菜子ちゃんは妖艶に

イタズラに微笑むと…

ビュッ ビュッ



…寝取らせ

したいの？

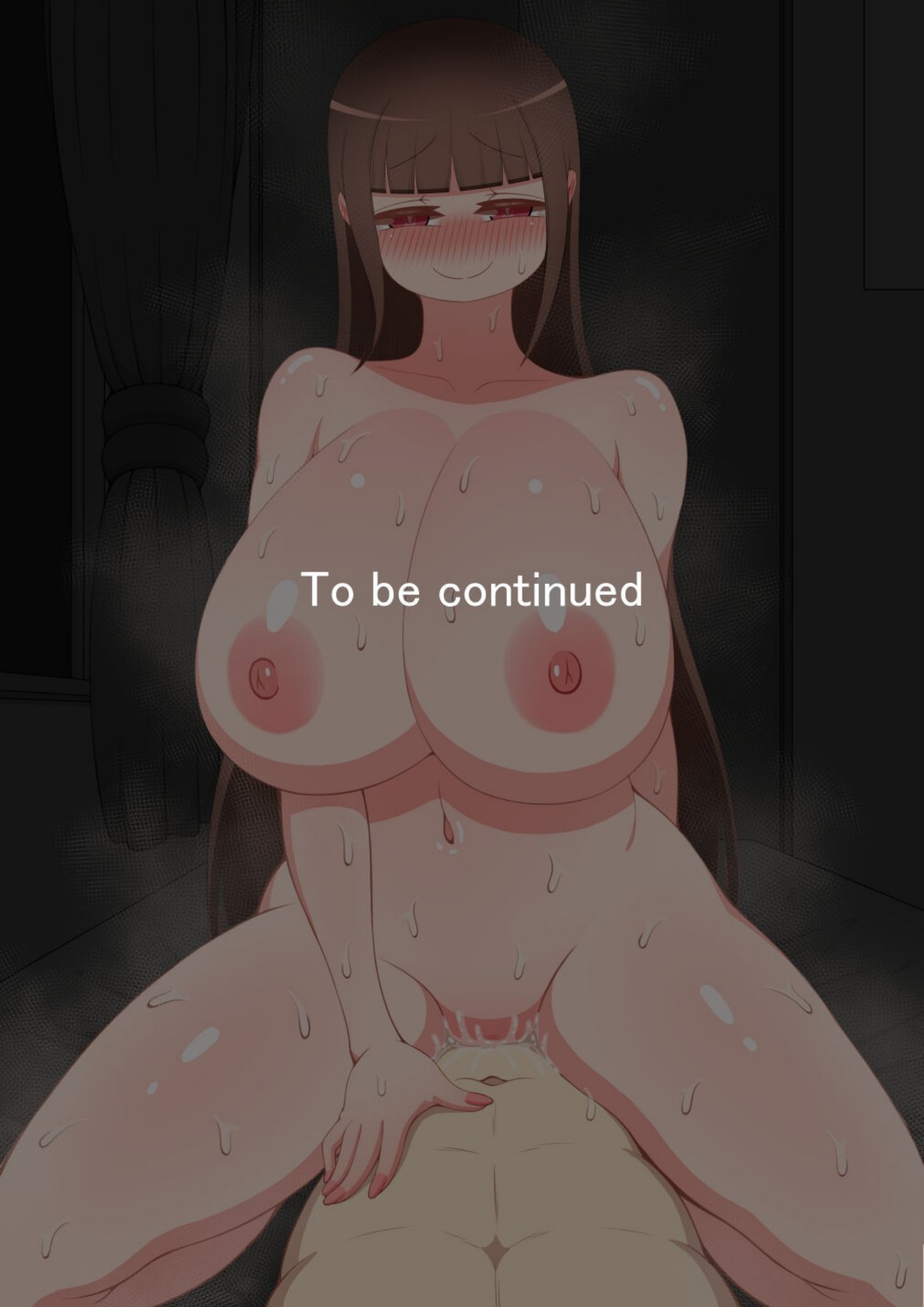




僕は……

ハア……ッ!!

ハア……ッ!!



To be continued